

皆様、おはようございます。7月の第二週になりました。梅雨明けももうすぐと言う所ですね。オリンピックもいよいよ来週から始まります。東京のほうの感染拡大が心配なところですが、ここまで来ましたら無事にオリンピックが大きな被害なく進められるようにと祈りたいと思います。無観客の中ではありませんが、平和の祭典としての国際交流の時が守られれば良いなと思います。どんどん暑くなっていきますけれども、ご健康にご留意ください。熱中症にお気をつけ下さい。岐阜の方では熱中症の方がたくさん救急搬送されたと聞きます。どうぞお大事になさってください。使徒言行録も3章の終わりのところまで参りました。

先週の箇所ではこうありました。3:13 アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神、わたしたちの先祖の神は、その僕イエスに栄光をお与えになりました。ところが、あなたがたはこのイエスを引き渡し、ピラトが釈放しようとして決めていたのに、その面前でこの方を拒みました。

3:14 聖なる正しい方を拒んで、人殺しの男を赦すように要求したのです。

3:15 あなたがたは、命への導き手である方を殺してしまいましたが、神はこの方を死者の中から復活させてくださいました。わたしたちは、このことの証人です。

聖なる正しい方を拒み、人殺しの男の赦免を願い、命への導き手である方を殺してしまった。これは全く不可解な事です。道理にかなわないことです。しかし、そのイエス様の御名が、そのイエス様の御名による祈りが、宣言が、この生まれつき足の不自由な人を立ち上がらせたのです。そしてそのことにより、この方こそ命の君、命への導き手であることがはっきりと示されたのです。このイエス様のお名前を信じぬくところにもたらされる力がいかなるものであるかが私たちに示されました。このお名前こそがこの人を強くしたという、そのイエス様の御名は退けられるべきではない、拒絶されるべきではない、否、信じられるべき神様の御力であり、まさにこの方は命への導き手であるというメッセージがここにありました。

そして今日はさらにそこから続いて慰め深い説教と続いて参ります。

26節にはこうあります。3:26 神がまずあなたがたのために、その僕を立てて、おつかわしになったのは、あなたがたひとりびとりを、悪から立ちかえらせて、祝福にあずからせるためなのである」。

「神はまず」。まず最初に、神様は一番大事なことに、最も重要なこととして、神様はまず、あなた方のために僕を立てていてくださった。僕イエス様を

お遣わしになった。これが、聖なる方を拒み、拒絶し、人殺しの命を助けて神の子を殺した人の愚かさと罪に対する父なる神様の最初からの御計画でした。

17節 ところで、兄弟たち、あなたがたがあんなことをしてしまったのは、指導者たちと同様に無知のためであったと、わたしには分かっています。

指導者たちも狂っていた。民全体も狂って、常軌を逸していた。しかし、それは無知のためであった。人の抱える無知、弱さ、至らなさ、神様はそれを理解しておられると、優しき励ましをペテロは語ります。

3:18 しかし、神はすべての預言者の口を通して予告しておられたメシアの苦しみを、このようにして実現なさったのです。

3:19 だから、自分の罪が消し去られるように、悔い改めて立ち帰りなさい。

人は神の子を十字架にかけて殺してしまうという、とんでもないことをしてしまった。無知のためとはいえ、とんでもないことをしてしまった。しかし、神はすべての預言者の口を通して、先刻そのことは予告しておられました。すなわち、人のその無知のために、人のその狂気のために、神様はメシアのお苦しみを定められ、その通りに実現成就させられたのです。なんとという恐ろしいことなのでしょう。神様は、人の子が苦しみ、拒絶され、十字架につけられることを先刻ご存じの上で、それでもかまわないと、愛する御子を狂気の中へと送り出し、人の罪が消し去られるようにと、その救いを断行してくださったのです。そこまでの、驚くべき恐るべき、恐れ多い、神様の愛があるのであれば、どうして私たちは悔い改め立ち帰る道を選ばないことがあるのでしょうか。神様は私たちの至らなさを、汚れを、反逆を、きれいにぬぐい取って、取り除いてくださいます。これは神様の一方的な恵みです。ですから私たちはその光の方向へと心に向け、方向展開して、心を入れ替えて再出発するのです。

3:20 こうして、主のもとから慰めの時が訪れ、主はあなたがたのために前もって決めておられた、メシアであるイエスを遣わしてくださるのです。

こうして、慰めが備えられます。心の元気を回復し、心の中深く、霊的な力付けが強く強く、私たちの心の中に注がれるのです。この深い慰めと救いをなすために、授けるために神様が前もって決めておられたメシア、救い主であられるイエス様を私たちの所にお遣わしになられたのです。

3:21 このイエスは、神が聖なる預言者たちの口を通して昔から語られた、万物が新しくなるその時まで、必ず天にとどまることになっています。

イエス様は、今私たちの目には見えませんが、万物がすべて新しくなるその時まで店におられるのです。

3:22 モーセは言いました。『あなたがたの神である主は、あなたがたの同胞の中から、わたしのような預言者をあなたがたのために立てられる。彼が語りかけることには、何でも聞き従え。

3:23 この預言者に耳を傾けない者は皆、民の中から滅ぼし絶やされる。』

3:24 預言者は皆、サムエルをはじめその後に預言した者も、今の時について告げています。

モーセがイスラエルの民を、エジプトの苦役の中から、奴隷状態の中から救い出したように、神様はまず人類のために、愛する御子を僕として、奴隷としての姿をとって、僕として、そして預言者としてお遣わしになりました。

モーセが力強く民を導き、神様は御力によって確かに民を救い出し、敵の手から助け出して自由にして下さいました。

「あなたがたの同胞の中から、わたしのような預言者をあなたがたのために立てられる。」

モーセがイスラエルの同胞の中から立てられたように、イエス様も、人として来られ、人の中から、人の同胞としてモーセのような解放者として、モーセを超える、罪と死かに人を解放するものとして立てられました。そして私たちもまた立てられています。

3:25 あなたがたは預言者の子孫であり、神があなたがたの先祖と結ばれた契約の子です。『地上のすべての民族は、あなたから生まれる者によって祝福を受ける』と、神はアブラハムに言われました。

わたくしたちは預言者の子孫です。私たちは、モーセの働きを見、イエス様の苦しみとお働きを見、その子孫として立てられています。それは、『地上のすべての民族は、あなたから生まれる者によって祝福を受ける』ためです。私たちを通して地上のすべての民族は祝福を受けると書いてあるこのことが実現するためなのです。

祝福をすべての民族に取り次いでいくために、私たちも同胞の中から立てられています。

3:26 それで、神は御自分の僕を立て、まず、あなたがたのもとに遣わして下さいましたのです。それは、あなたがた一人一人を悪から離れさせ、その祝福にあず

からせるためでした。」

そのために神様は、私たちを祝福の基とするために、尊いイエス様の贖いにあずからせ、ご自分の僕イエス様を立てて、私たちに贖い主を遣わしてくださいました。それは私たち一人一人が神様のお心を忘れて自分の好きに生き、そうしていつの間にか神様を拒絶し、神様を無きものにし、人殺しをかばい、神様を十字架につけるといふ狂気に私たちの心が傾くからでした。しかし神様はそんな弱い、無知な私たちのために、まずわたくしたちのために、祝福のために、赦しのために、予めご計画の内に祝福にあずからせるために御子を僕の姿として遣わし、十字架に贖いによった、私たちを悪、邪悪、よこしまから離れさせ、祝福にあずかることが出来るようにと、向きを変えて出発し、よこしまを取り除くために祝福をまず第一に、先んじて備えていて下さったのでした。そのことを知って私たちは、その受けた祝福を、私たち自身のもので閉じ込めておくのではなく、独り占めしておくのではなくて、イエス様とともに、モーセとともに、遣わされて、地上のすべての民族は、あなたから生まれる者によって祝福を受ける』ために今週も生きることを願いたいと思うのです。

私たちのためには、慰めがあります。力付けが、回復があります。溢れる慰めをいただき、力の回復を頂き、養いをいただき、今週も進みます。それはその恵みを分かち合い、バトンを渡していくために私たちはあるということだからなのだとも言葉から改めて教えられます。

今週も私たちは自分たちのためだけでなく私たちに続いて祝福に入る方々のためにバトンを渡すために神様が私たちを力を与え励まして強めて共にいて私たちを励ましてくださると言う思いと祈りの中に歩いていきたいと願います。